



落葉集錦

上

落葉集

世に傳へ給ふは、
世に傳へ給ふは、

世に傳へ給ふは、
世に傳へ給ふは、

世に傳へ給ふは、
世に傳へ給ふは、

世に傳へ給ふは、
世に傳へ給ふは、

世に傳へ給ふは、
世に傳へ給ふは、

世に傳へ給ふは、
世に傳へ給ふは、

世に傳へ給ふは、
世に傳へ給ふは、

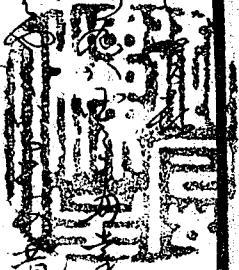
世に傳へ給ふは、
世に傳へ給ふは、

世に傳へ給ふは、
世に傳へ給ふは、

世に傳へ給ふは、
世に傳へ給ふは、

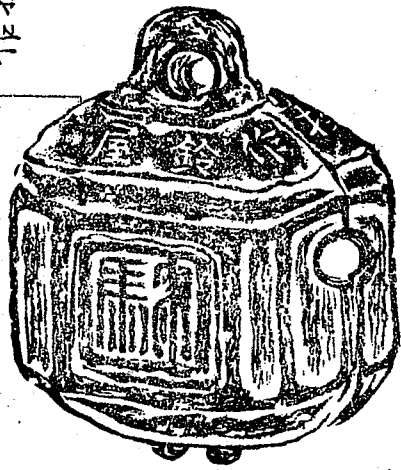
世に傳へ給ふは、
世に傳へ給ふは、

世に傳へ給ふは、
世に傳へ給ふは、

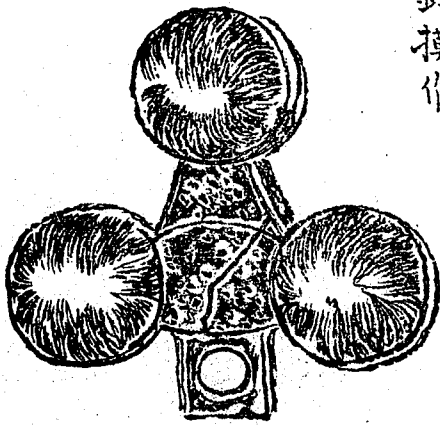


本居氏藏

撫作
透鈴
早屋
銘如此



古鈴
鈴屋之
摸作
裏銘



本居氏藏

堅物

志きしぬほやもくしんげんをそく
約日ふいけふんごくすくすくす
室長



本居氏藏

豎物

寶祚之隆當與天壤無窮者矣

平宣長書

本居氏藏

○此下有之、
懷帝下畧

馭我慨言を殿下は御ふ
佛徳んせはまゝにせしめ
りしむ

宣長

伊路は海や志つらんぬれ
うもそへてのちのち
かそへしあ
朽もすくもすく日き乃
るしそまはあつしむは
志阿のちをたれ

定政法華書の日々の始り
日新書の日々の始り

宣長

かこへし神智の神境をく
こもも阿のちのちのち
風造君の許ふそま
りしむ

紀のほや天のさねのみま
く阿のちのちのちのち
あつしむのちのちのち
あつしむのちのちのち
あつしむのちのちのち
あつしむのちのちのち

國造家藏



Handwritten text in cursive script, likely a letter or a document. The text is densely packed and runs horizontally across the page.

又

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page or as a separate entry.

國造家藏

全紙豎物

Handwritten text in cursive script, enclosed in a rectangular border.

有馬氏藏

有馬氏藏

豎物

森本氏藏 本在申候

予は梅の香を好むに似たりと云ふは
其の意を以て梅の香を好むに似たりと云ふは

予は梅の香を好むに似たりと云ふは

其の意を以て梅の香を好むに似たりと云ふは

予は梅の香を好むに似たりと云ふは

其の意を以て梅の香を好むに似たりと云ふは

予は梅の香を好むに似たりと云ふは

其の意を以て梅の香を好むに似たりと云ふは

森本氏藏

予は梅の香を好むに似たりと云ふは

其の意を以て梅の香を好むに似たりと云ふは

予は梅の香を好むに似たりと云ふは

其の意を以て梅の香を好むに似たりと云ふは

予は梅の香を好むに似たりと云ふは

其の意を以て梅の香を好むに似たりと云ふは

予は梅の香を好むに似たりと云ふは

其の意を以て梅の香を好むに似たりと云ふは

予は梅の香を好むに似たりと云ふは

其の意を以て梅の香を好むに似たりと云ふは

殿の御前には
古傳抄遺書
日新大社の御事
を後をよみ
はしむる
宮長

紀のゆかりあり
殿の命を
大社の御事あり

みよこに
くしあふ
大社の御事あり
心の中
國に
みよこに
すくえ
殿の御事あり

横物 有竹居藏

雙松蔭藏

少〜あつゝ東にさ〜
きさうなつゝ〜
きさうなつゝ〜

葺庵

よ〜あつゝ〜
〜あつゝ〜
花のおもひ〜
あつゝ〜
あつゝ〜

た〜あつゝ〜

あつゝ〜

あつゝ〜
あつゝ〜
あつゝ〜
あつゝ〜
あつゝ〜
あつゝ〜
あつゝ〜
あつゝ〜

早書書

かきくしん花の

ふーた乃下名

ふふふふふふ

新書一冊

宣長

□此下有之
八色帛下畧

みやしんをらちち母らりて山の花は
あけうみのゆえにけしき

△此下有之
短冊下畧

花衣をわく筆の流るれえ
かけをわく水わくうね
大平

佐々木氏藏

古波連祖父正典書

房中書

宣長

正りふらふらふら

ふらふらの大夫人のふらふら

ふらふらふらふらふらふら

古波連祖父正典書

新書一冊

大書上

諸平新見

大平

横物

歌十一首略

加納氏藏

井口氏藏 △

子日松
いふふふふふふふふふふふ
むくむくむくむくむくむくむく

嶋氏藏 △

しめ葉
知時
はふふふふふふふふふふ
むくむくむくむくむくむくむく

志賀氏藏 △

春暁
のちぎふはひひひひひひひひひひ
まのまのまのまのまのまのまのまのまの

正月
まのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

木梨氏藏 ○ 歌次同

筆端に雲霞をまといてはとらえて
いづれをせしむ

はるを海きの那の命はたはまふわあ
まらちあてふもわもははひついで國らう
みははきうらうらうらうらうらうらうら
のまらうらうらうらうらうらうらうら
たはまのいのすきやうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうら

宮長

あしうらうらうらうらうらうらうら
みーのきんきもあうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうらうら

大平

世壽堂藏

春暎

あしうらうらうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうらうら

山村氏藏

胥樂庵藏

野鳥

一尺藤のつらみ

きりぎりす

きりぎりす

きりぎりす

宣長

田中氏藏

尋花

心あはれさる

山崎の春風

ふとあかりぬ

尋花

宣長

平井氏藏

春草

難波にやわしく春の草は生えて
りけり春の草は生えて

難波の

春草の秋

よみまじり

難波にやわしく春の草は生えて
きりぎりす

平井氏の

下畧



樟下舎藏

森本氏藏

みやのほたるの
か
神もたすか
安長

山
花
安長

安田氏藏

松の山

松の山

梅花三百首

梅花三百首

あけぼの空に花乃色をばつとて梅のこころをばつとて

寛政十二年十月十八日

中長

水崎氏藏

歌二百九十九首畧巻物

長原氏藏 △

山花盛

雪梅はぬきも梅はらさかりあふ
もよほるあふもよほるあふ

秋津氏藏 △

江花

江田は風まかせに花はら
はきりくさすのむきあふ

高松氏藏 △

高花多

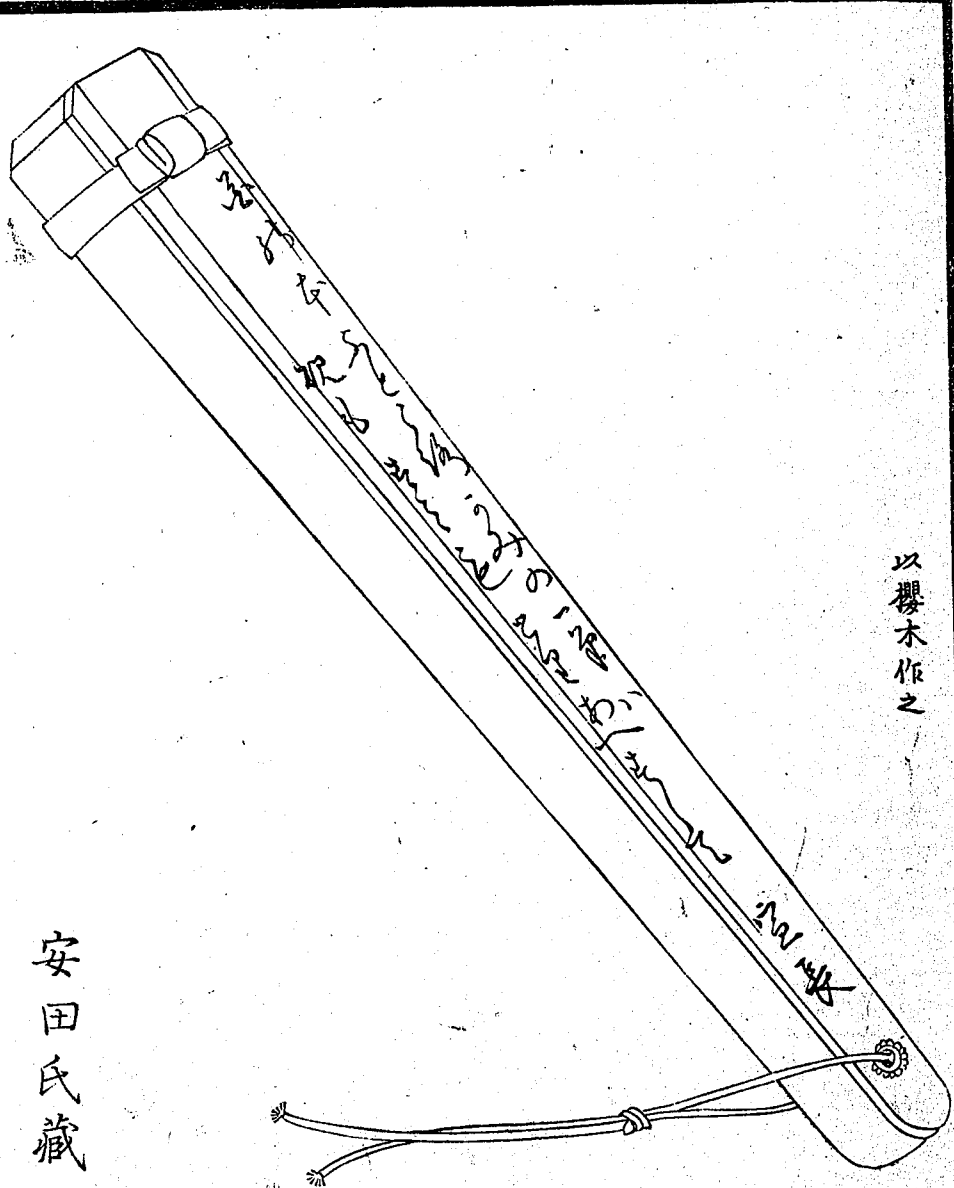
高花はさかたけはさかたけ
はきりくさすのむきあふ

茅野の花

美しき花は山の橋と流る川
はなはたけはさかたけはさかたけ
はきりくさすのむきあふ
はきりくさすのむきあふ
はきりくさすのむきあふ
はきりくさすのむきあふ
はきりくさすのむきあふ

終名舎藏 堅物





以櫻木作之

安田氏藏

岩橋氏藏。

詠海邊霞歌

宣長

僧出くわうし如
とくうりんかこせか
まのしゆれもすむわ
守保純

野介藏と子

~~~~~

宣長

まのしゆれもすむわ  
あまのしゆれもすむわ  
のしゆれもすむわ  
野介藏

井口氏藏

河上  
春月  
宣長

吾れ物も  
名あはれ  
清くは  
阿蘇好也  
なま乃月歌

桃廼屋藏

行路  
卯年  
宣長

ふつてお人  
さりたて卯年  
ゆきこり何とも  
さしおのひち

双幅

小池氏藏

河上  
春月  
宣長

吾れ物も  
清くは  
阿蘇好也  
なま乃月歌

雛歌  
宣長

あはれはなれ  
さしおのひち  
花乃中紀り  
なま乃月歌

紙糊庵藏

大御代富賀比歌

多加比加流比能美古夜

須美斯志和賀意富伎美

余呂豆與余伊夜登許志

久余淤久夜麻能波毘呂

久麻訶志斯賀波能比呂

理伊麻志斯賀延陀能佐

加延伊麻世登袁呂賀美

且阿夜余訶志許美許登

富岐麻都流 平宣長

本居氏藏

堅物

茶

茶と木は心

茶と木は人の心

茶と木は心

茶と木は心

茶と木は心

茶と木は心

和田氏藏 横物

水崎氏藏



板額像者高彫

紀三井とよと  
日浦をん  
編て  
木乃編と名草  
やよと見れを  
夕か下ふ  
玉出路  
宣長

榎本氏藏

原氏藏

聖物

白く雲の影も  
阿久保の山を  
あふれし水も  
宣長

榎本氏藏

早苗  
あふれし水も  
宣長

同

夏月  
久し月影も  
宣長



安田氏藏



軍中書の...  
 外...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

岩橋氏藏

新未遍

里かぬ

月

か

乃

し

あ

宣

明

藏氏梨木

空梅てらおもしろ

龍もくも形をぬ

身て好言好

好もくも形をぬ

安田氏藏

宣長

法橋正山



極彩色堅物積記右



松鶴亭藏

わさねのうた

宣長

一しきお海

よしきか

あの花

よしきか

山郭

同

わさねのうた

ほくきんぬ歌

よしきか

あの花

よしきか

よしきか

大平



福山氏藏 ○

あまの雲

あまの雲

あまの雲

あまの雲

あまの雲

あまの雲

あまの雲

あまの雲

あまの雲

宣長

長原氏藏 △

夏猿

あまの雲

眉壽堂藏 △

映夏涼

あまの雲

有竹居藏 豎物二幅

あまの雲

あまの雲

同

赤根

ふし

二尺の幅

あまの雲

宣長



あつたての紙のきり

紙

あつたての紙のきり  
あつたての紙のきり

紙

あつたての紙のきり  
あつたての紙のきり

紙

あつたての紙のきり  
あつたての紙のきり

紙

あつたての紙のきり  
あつたての紙のきり

富長

安田氏藏

横物

本居氏藏 横物

佐野の

舟橋

室長

とて  
りて



とて

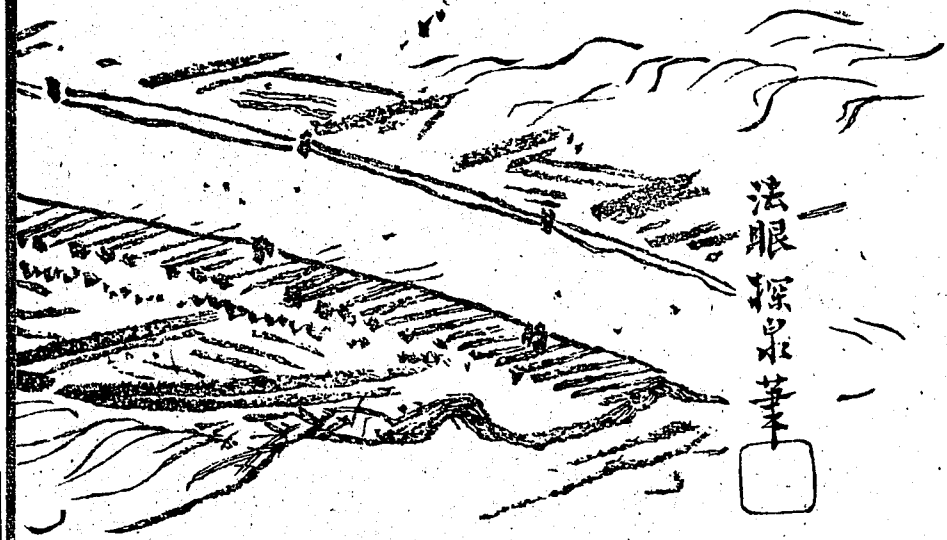
この

とも

とて

とて

ふやけ



法眼探泉筆



原氏藏

横物

子母そく 御持ちも御と掃口本  
巧しき 御持ちも御と掃口本

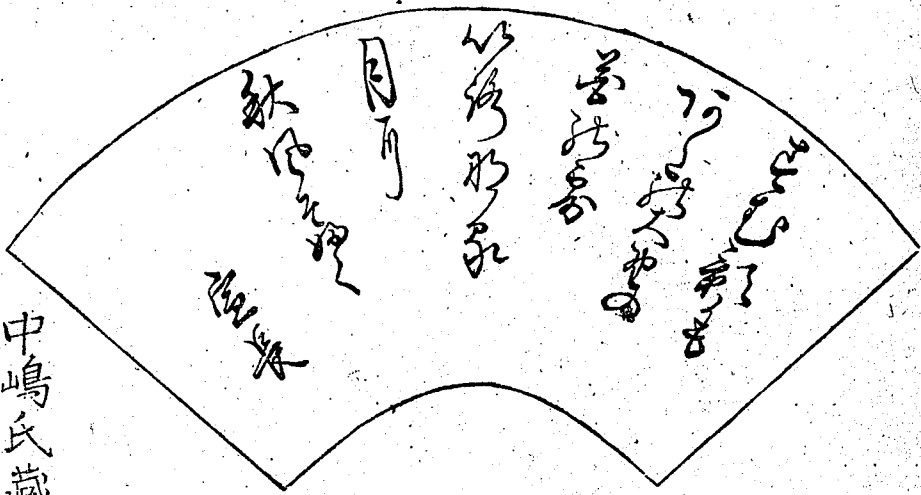
宣書



瑞舟

本居氏藏。

大正十二年四月廿五日  
本居氏藏  
宣書



中嶋氏藏

松村氏藏

月

ふあゝんいり

あきそ秋乃月

あきそあひるいそ

深き東の空

宮長

野澤氏藏。

八月十日秋海會  
ふあゝんいり  
あきそあひるいそ  
あきそ秋乃月  
あきそあひるいそ

八月十日秋海會  
あきそあひるいそ  
あきそ秋乃月  
あきそあひるいそ  
あきそあひるいそ

安田氏藏

安田氏藏。

娜具丸賣無方  
社難家礼月見  
天毛雨佐乃美  
万沙流安記之  
古去魯把

右月添秋思

舜菴

森氏藏

野月

とむ野月ありては人の心は清  
夜は月小秋の路をゆく宜長

長原氏藏

秋月

とつてはさかえわたり  
月を添へて秋乃志く宜長

桂華堂藏

秋月

ゆき里の浅草のあふりて  
秋の秋ありて月如秋の那宜長

琴渚舎藏

秋月

ふりてはさかえわたり  
秋の秋ありて月如秋の那宜長



中嶋氏藏  
横物極彩色



應瑞

あつたふり

かゝとせえぬを

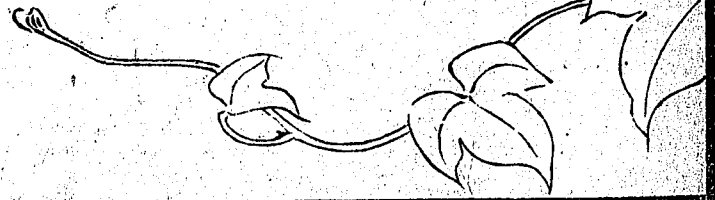
いしの海

ほろろいぬい

花はあき

うみ

宮長



本居氏藏 豎物極彩色

たつ日おまのりらぬおのりらぬ

かきかきかきかきかきかき

宮長



淡記了右

本居氏藏

宮長

沼野氏藏

月前縁

縁を赤のこゝろと別して  
しりしりしりしりしりしり

高浦氏藏

野かき

思ひしりしりしりしりしり  
もももももももももももも

あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ

思ふ赤のこゝろと別して  
しりしりしりしりしりしり

本居氏藏 豎物極彩色

神代中書

公繁

宣長

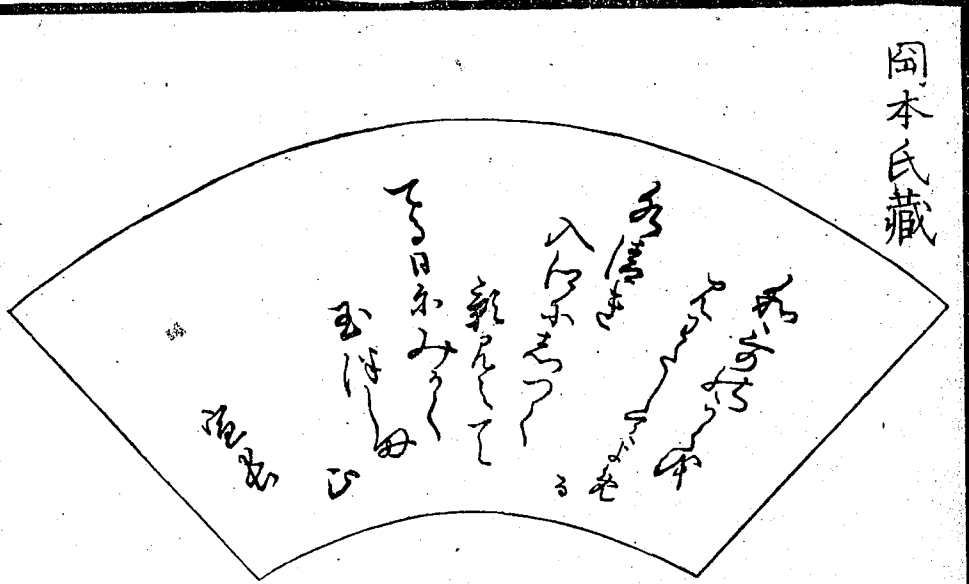


小池聽松藏

海月

朝日軒  
宣長

岡本氏藏



紀二冊  
宣長

玉置氏藏

心もかゝらぬは  
しるはるるは  
をりておとす  
かすまらぬは

宣書

乗先玉ふもす  
かすまらぬは  
そのは破る梅川の  
とらふつま又

冬かゝる老木も  
はくらく川流き  
去りて身を

安田氏藏



神功山にたつと  
かすまらぬは  
宣書

長原氏藏

妙法院宮御庭

積翠園十景之一

碧虹橋

此院宮御庭係此院經冊

翠林名のありのみを成すありて  
ゆめや池の虹乃をえり

日御庭十二景

陸岸彩霞

紫花重かもくろくとるまてふ  
つたてふまはあふりへり

平林春花

もろはくくまはあふりへり  
とやーとみふもつと喜ぶ

青田亂蛙

夕陽はかろく暮らふをや田乃  
苗代あふれつとよふ

喬松啼鶴

あふりては雲の松乃を枝り  
いゆきつてはゆるほそき

西山夏雲

山乃くは入口かよふ旗雲と  
まはゆふふとあふり

茅簷明月

新踏も秋乃月夜か乾きよ  
かやのそりてはあふり

曲塢秋草

もよおしを家裏の垣不秋草と  
く川を看てしから枯れり

虹橋丹楓

秋の池乃虹のを橋ふ色とえて  
あらしみきはのふらち紫花と

曉園積雪

あしぬへてこころさる白ふつ  
あらしにわらわは雪をまかせ

翠池浮鴨

さし給えて唐きほ池をけり鴨の  
かゆきかくゆき伸れぬつら

蕭寺清鐘

うらたふよひに清鐘をふき給て  
きつたふゆきかちたふ

竹窓夜雨

風をよみまじり竹の葉をわく  
つらたふやうあまのねをぬく

伴のあや

まじり作せしふらと後  
よみ給て

宣長

安田氏藏

大横物

高橋氏藏 豎物 人丸之讚画畧

はーんやーん思ほ  
神乃神此かゝ思ほふ乃  
神さあまも目亦見ま  
りてゆにまゝの夢基  
みおもほ也 宣長

野澤氏藏

猿鳴  
しきさき岩根  
ふかふか  
し路のまゝ  
毎金さ  
宣長

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, written on the left page of the open book.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, written on the right page of the open book.



双松蔭藏

横物

5  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆

〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆  
 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆

東路の續一〇二二二年十一月廿四日

いづれに候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡りてお出  
下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡りてお出  
下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡りてお出  
下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡りてお出  
下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡りてお出  
下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡りてお出  
下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡りてお出  
下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡りてお出  
下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡りてお出  
下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡りてお出

ゆふのついでに候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡り  
てお出下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡り  
てお出下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡り  
てお出下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡り  
てお出下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡り  
てお出下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡り  
てお出下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡り  
てお出下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡り  
てお出下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡り  
てお出下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡り  
てお出下り候へば御座りてくせのぬちをうけしに里を渡り



猿者人人者猿迦母

寐毛不為豆猿者月見流

人者夢美流

宣長

原氏藏 堅物画畧

天明七年秋懽豊絵歌

天比乃神もねらもねら 年まよひ年始きしむ  
天地の神もねらもねら 福津日神もねら  
世の人の志もねらもねら 神もねら  
此年のおやせもねらもねら 蠶養もねら  
おきもねらもねらもねら 價もねら  
ねらもねらもねらもねら 買もねら  
て飯もねらもねらもねら 花もねら  
人の心もねらもねらもねら 心もねら  
市府もねらもねらもねら 心もねら  
ふらもねらもねらもねら 心もねら  
ふらもねらもねらもねら 心もねら



安田氏藏

水戸藩御用書

御用書

安田氏御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

水戸藩御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

紙

有田屋藏

みまか

ゆり

ゆり

ゆり

宮長

宮本氏藏

小浦氏藏 横物

小浦の御書  
法皇の御書  
皇太子の御書  
皇太子の御書  
皇太子の御書  
皇太子の御書  
皇太子の御書  
皇太子の御書  
皇太子の御書  
宣長

本居氏藏

外  
宣長

宮本氏藏

紀年  
宣長

岩崎氏藏

宣長

安田氏藏

横物

美公系回之卷

大伴官孫家持贈抄子致七其申小

お肝之情推而如此許余意に苦おふ事

系お換ら本

Handwritten text in cursive style, likely a copy of the text on the opposite page.

右端田

官本



緑岡藏

豎物極彩色

なまはらふまゝに  
おのゝろはほひの  
くはをねま

法眼月岡齋



近月樂庵藏

△

雲夢志

なまのまゝに  
こゝろあしひの  
勢も宣長

志賀氏藏

豎物極彩色

なまはらふまゝに

おのゝろはほひの

くはをねま

法眼月岡齋

法眼月岡齋



法眼月岡齋

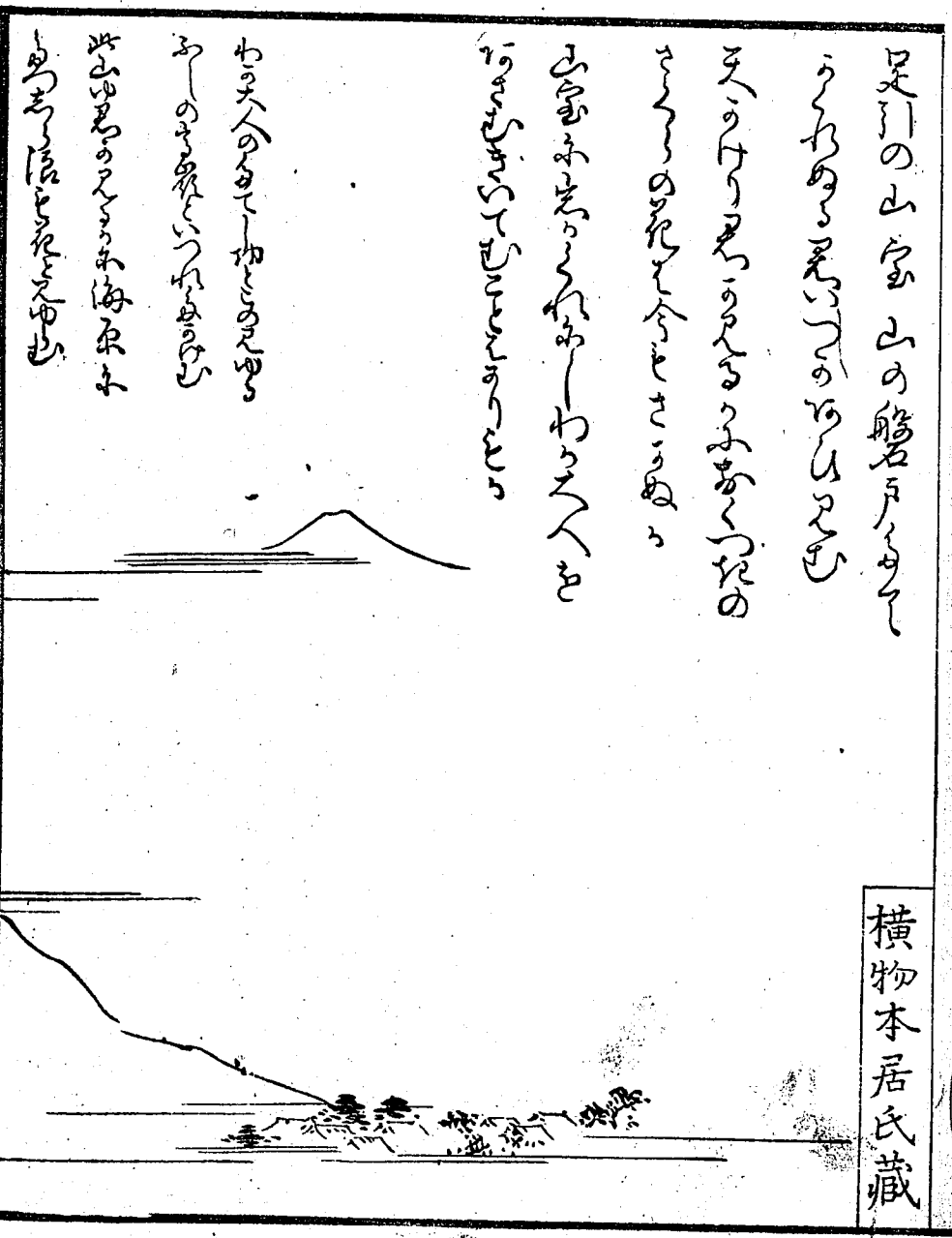
□ □

有馬氏藏

△

なまはらふまゝに  
おのゝろはほひの  
くはをねま  
勢も宣長

神の代り神の代り  
 神の代り神の代り  
 神の代り神の代り  
 神の代り神の代り



横物本居氏藏

神の代り神の代り  
 神の代り神の代り  
 神の代り神の代り



神の代り神の代り  
 神の代り神の代り  
 神の代り神の代り  
 神の代り神の代り

神の代り神の代り  
 神の代り神の代り

何事あるは

ままの鶴乃

お風ふも

ふきひらうふき休れ

室書

紙糊庵藏 堅物

178



2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

県立耐久高校所蔵 梧陵文庫 資料番号 和24-2-138-1